
correct

Curoy

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

correct

【コード】

N0590H

【作者名】

Curroy

【あらすじ】

私は生きた精巧な造形物で、父は生きた有能な創造者だ
才父娘の歪な愛情。あられずにさらっと。 天

(前書き)

正直他意はありません。インスピレーションを得たというのは本当だけでも。わからなければ気にしないでください。

「お父さん」

私は肩越しにかけられた呼び声にそれを悟った。
娘もこの結論に達したということ。

短く永い思索に疲れ、きつと私のその肩は重く力なく見えること
だろう。

見ずともわかる、彼女の双肩のように。
言葉などを必要としない、二人の会話が通い始める。

私は父を尊敬している。

敬愛している。

いや。

全てを超え、含めて、愛している。

それは心酔と呼ぶのかも知れない。

私は父の英才教育のお陰でプロとして、夢を叶えることが出来た。
それによって同時に、プロを育てる父の夢も叶えることが出来た。
私たちは全く同じ夢を共有し、苦楽を共にし、失敗と叱咤をも解
り合い、到達した。

そして、この先もこの二人三脚は続く。

二人きりで。

父の夢を叶えられるのは私しか居ないし、私の夢を叶えられるのは父のほかに居ない。

二つの体を持ちながらにしてそれは一身であり、一身であるからこそ二つの体を持つ。

二つの心を持ちながらにしてそれは一心であり、一心であるからこそ二つの心を持つ。

私は生きた精巧な造形物で、父は生きた有能な創造者だ。

親子だからこそこのパートナーシップは成立しているのだ。

私は娘を愛している。

いや。

敬愛している。

全てを共にし、理解し、依存している。

理想的な親子関係と呼べるのかもれない。

いや、夢想的であり、理想とはかけ離れている。

私は娘を理解しているからこそ、そして娘と同じ思いを感じるからこそ、危機感を募らせる。

私たち親子は全ての愛情を以って繋がっている。いや、違う。

愛欲だけは別だ。同じであってはならない。

だから私は。

くだらない女を困う。

つまらない女を買う。

こんな私なら娘は男として軽蔑してくれるだろうか。

こんな私では娘に男として軽蔑されてしまうだろうか。

親子というパートナーシップの中で、家族としての私の欠陥。

私は父を理解している。

父も私と同じ思いを感じるだろうから。

醜聞を撒き、自分が愚かな道化師となることで世間を欺く。醜態を晒し、自分が悲しいピエロとなることで衆目を謀る。

そして私も欺こうとしている。

いや。

私を欺いている意図を伝える。

二人は二人で一つのだから、それが父の役割、師の役割、裏方の役割であつたから、ただそれだけの話であつて。

犠牲となつた母には同情する。

けれど、それを理解できない母には同情しない。

なぜなら、最も強く愛し合っているのは私たちなのだから。

こつした形でしか愛し合えず、愛し合うことの出来ない私たちなのだから。

妻には理解してはもらえないだろう。

なぜなら、彼女は特別な人間ではないからだ。

このような特殊な愛情があるということを見ぬまま拒む一般的な人間だからだ。

当然のこと。

ともすれば、運命の相手を作り上げるといふ行為は卑劣に見えてしまう。

だが、作り上げる以外に運命は人の手に為らない。

そして、その強い絆の許で喜びを分かち合うといふ幸福は実現されない。

私は娘を愛している。

産まれたときから、産まれる前から。

その娘に対して与えられる最大の幸福の一つを与えたのだ。
…妻よりも、誰よりも、大きな幸せを。
私たちは…私は、酷いエゴイストだ。

…でも一つだけ納得できないことがあるよ。
私は、父を愛していると言ってはならない。
嘘を吐かなければならない。
けれど、それは私を酷く惨めな気分させる。
道ならぬ、憚られる、隠さねばならぬ、それはわかっている愛なの
のだけれど。

だからこそ、その現実をまざまざと突きつけられているというのが判ってしまうから。

並みの恋人同士より、不自由に甘んじなければならぬ。
一生涯。

結ばれているのに、結ばれていてはならないとされる。
実っていないがらに、実っていないとされる。
愛し合うほどに、否定されてゆく愛。
それでは、永遠に二人は、手を重ねながら遠く離れたまま。

誰にも許されない愛。

娘はきつと、全てを判って耐え、そしてだからこそ、この関係は崩壊して行くだろう。

そんな精神状態では、プロの過酷な競争に勝つことなど、適わなくなっていくだろう。

それは夢の終わりを意味している。
それは現実による復讐が始まる時。

夢のままに得ていた幸せがごとく失われ、裏切られる。音と共に過ぎ行く現実が遺すのは、果てしない喪失感だけ。二人を繋いでいた愛でさえ、不信と不安と不穩に汚れ、重い重い傷に変わる。

これ以上娘と二人で甘い夢を見続けることは不可能だ。明るい日の光の元で甘い夢を見てしまった…これは罰なのか。

いつか、言うよ。

破滅の告白を。

どちらにせよこの蜜月は続かないのだから、このままでは。

だったら、暗い天国へ登るよりは、眩い地獄へ落ちたほうがいい。全てが終わる前に。

復讐の契機は、私が与えてあげるの。

いつか彼女がこの事実を告白するとき。

そのときにはもう、全てが遅いのだ。

朽ちた偶像が破壊されることは無い。

誰もがその言葉を冗談だと受け取るだろう。

もう私は腐ってしまった。

彼女もそのときにはもう零落の坂道にあるだろう。

それが絶望のとき。

終焉のとき。

これが純粹で至高でありながらこそ歪な愛だったと打ちひしがれるのだ。

二人で…

そして絶望の中、歪な愛が実を結ぶの。

お父さん。

(後書き)

勢い。ね。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0590h/>

correct

2010年10月8日15時16分発行